

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0175800275		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3番地12号 (電話) 0123-88-3354		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月8日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(21年 11月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 8月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 3人、	非常勤 10人、 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺き 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 12,000円 暖房費: 5,000円(12-3月)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要(3月 8日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立長沼病院・土岐歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「みんなの家」は、自然環境に恵まれた長沼町の静かな住宅地に位置している。広い敷地内には、同法人のグループホームやデイサービス施設があり、外気浴に適した東屋や、近隣にはなかよし公園、しらかば公園などもあり、利用者は日々地域住民と関わりを持ちながら生活している。管理者や職員は、利用者一人ひとりの生活のペースを大切に、理念に掲げるように、ゆったりと自由に、ありのままの姿で生活できるように日々温かなケアを行っている。管理者は、今後は更に職員研修の充実を図りレベルアップする事で、より一層一人ひとりの利用者に沿ったケアを目指している。利用者は、温かな職員の笑顔に支えられながら明るく穏やかな生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの理念は話し合いを行い新たに作成している。毎月広報誌を発行して事業所全体の様子と個人の様子も報告している。外部研修の参加、介護計画の説明・確認などの取り組みも行われている。重度化や終末期の方針の書面化、夜間想定避難訓練は、次年度も継続の意向である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は数名の職員と役職者が項目毎に話し合いを行い、副理事長がまとめ上げている。管理者は地域の関わり大切さを更に意識する機会になったと感じ、職員は評価項目と日々のケアを結びつける事は難しいと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度は、家族や町内会班長、役場福祉課職員、地域包括支援センター職員などが参加して3月と8月に開催されている。自己・外部評価の報告、災害時の地域協力を含めたグループホームと地域との関わりなどについて話し合われている。災害時の避難誘導手段について意見をもらい、避難訓練などに役立てたり、参加者からアドバイスを受け、意見箱を設置して家族の意見や不満を引き出せるように工夫している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「みんなの家通信」を発行して、事業所の様子や個々の利用者の様子を写真やコメントで家族に報告している。体調変化がある時は随時電話で連絡を取り、本人の状況を家族に報告している。苦情申立機関を重要事項説明書に記載して、利用開始時に家族に説明している。家族から出された意見や要望は連絡ノートに記載して、職員間で情報を共有するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、夏祭りの神輿を見たり、宮司によるお払いなどを受けている。家族の送迎で利用者数名が敬老会にも参加している。事業所の夏祭りには、利用者や家族、地域の人が20名程参加して交流が行われ、カラオケやビンゴゲーム、焼きとりなどの屋台を楽しんでいる。毎週土曜日にはボランティアによる音楽療法なども行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度は開設当初からの理念「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」の3項目に「みんなとともに」という地域密着型サービスとしての理念を、運営者と職員が話し合いを行い作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに掲載し、食堂に掲示して職員や来訪者に周知している。管理者と職員は、一人ひとりの利用者がゆったり生活できるように心掛け、本人の意向を尊重して無理強いしないようなケアを日々心掛けて、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、夏祭りの神輿を見たり、宮司によるお払いなどを受けている。家族の送迎で利用者数名が敬老会にも参加している。事業所の夏祭りには、利用者や家族、地域の人が20名程参加して交流が行われ、カラオケやビンゴゲーム、焼きとりなどの屋台を楽しんでいる。毎週土曜日にはボランティアによる音楽療法なども行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は数名の職員と役職者が項目毎に話し合いを行い、副理事長がまとめ上げている。管理者は地域の関わり大切さを更に意識する機会になったと感じ、職員は評価項目と日々のケアを結びつける事は難しいと感じている。今後は充分時間をかけて、全職員で評価に取り組んで行く意向である。		ガイドブックなどを利用して評価の意義や項目毎の内容の理解を深め、職員全員で自己評価に取り組み日々のケアに活かされるように期待したい。外部評価での取り組み項目には計画的に取り組みを行い、更なるケアの充実に繋がるように期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	今年度は、家族や町内会班長、役場福祉課職員、地域包括支援センター職員などが参加して3月と8月に開催されている。自己・外部評価の報告、災害時の地域協力を含めたグループホームと地域との関わりなどについて話し合われている。災害時の避難誘導手段について意見をもらい、避難訓練などに役立っている。		運営推進会議の目的を再確認し、年間計画を立てて開催頻度を増やし、充実した話し合いが行われるよう期待したい。
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	管理者は毎月役場主催のサービス調整会議に参加したり、利用者の困難事項などについて相談するなど訪問する機会も多く、役場と連携してサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月「みんなの家通信」を発行して、事業所の様子や個々の利用者の様子を写真やコメントで家族に報告している。体調変化がある時は随時電話で連絡を取り、本人の状況を家族に報告している。金銭管理は立て替え方式にしており、請求書を毎月郵送している。		ホーム便りなどを利用して、職員の入れ替わりを随時家族に報告するように期待したい。
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情申立機関を重要事項説明書に記載して、利用開始時に家族に説明している。運営推進会議でアドバイスを受け、意見箱を設置して家族の意見や不満を引き出せるように工夫している。家族から出された意見や要望は連絡ノートに記載して、職員間で情報を共有するようにしている。		家族の意見や不満を積極的に引き出すような方法を職員間で話し合い、運営に役立てられるように期待したい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人間での定期異動は行われていないが、離職による事業所間の介護力の均一を図るために異動する事がある。離職時は、利用者に知らせる事で認知症の症状が進行する事もあるので黙って辞めるようにしている。利用者に聞かれた時は「家の都合で暫く休んでいる」などと説明する事で、ダメージを防ぐように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、北海道栄養士会空知支部の高齢者の食支援研修や、町主催の高齢者虐待やインフルエンザ予防法、食中毒など、研修内容に応じて経験年数に配慮したり、職員の希望に応じて参加できるようにしている。内部研修は、外部研修後に不定期に報告研修会として実施している。新人はマニュアルを作成して指導を行い、雰囲気を見ながら徐々に利用者に馴染むようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国介護事業者協議会の勉強会や新年会、忘年会に一般職員も参加して同業者と交流を行っている。職員は個人的に知り合いの事業所を見学に行く事もある。法人間では、今まで例にない症状の利用者がサービスを開始した時に、互いに訪問してケアを学び今後役に立てるようにしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が訪問して理事長と面談を行い、サービス開始について話し合いを行っている。本人が見学に来るケースもあるが、家族の意向で本人の見学や職員との面談もなくサービスを開始する事もある。サービス開始後は、帰宅願望もあるため「迎えに来るからね」と話しかけながら、落ち着くまで本人のペースで好きなように過ごしてもらうように配慮している。		サービスをいきなり開始する事なく、家族に協力を依頼して本人に見学に来てもらったり、職員が面会に行くなどの機会を作り、安心して利用開始できるような工夫を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験を活かして、畑仕事を教えてもらったり、煮物や昆布締め作り方、裁縫や編み物などを職員は学んでいる。昔の話や知恵を教える事も、日々新しい事を学ぶ事ができると職員は感謝している。「疲れたの?」と肩を揉んでもらう事があるなど、優しい言葉に精神的にも支えられていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在は会話による意思疎通が可能なため、日々の会話の中から利用者の思いや意向を把握するようにしている。また、家族に趣味を聞いたり、以前の生活状態を聞いて本人の思いを把握するようにしている。今後、会話から思いの把握できなくなった時は、現在の生活リズムや生活経過を参考に本人の思いや意向を把握して行く予定である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始に際しては、それまでの担当ケアマネジャー及び家族の情報を基に暫定計画を作成する。医療情報はケアマネジャーと家族から得る。本人の意向を確かめるには至らない。これによって約1週間経過をみた後、本人の意向、職員の情報を取り入れて管理者及び計画作成担当が本格計画作成し、これを改めて職員に諮り、家族の了解確認を得て最終計画とする。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定時の見直しは3ヶ月毎に行う。日常の観察、生活記録を基にした本人の意向や状態、家族の意向、職員の意見を取り入れて見直し計画を作成する。計画の内容は本人にも説明する。入退院、介護保険の認定更新、心身レベルの変化があった場合には3ヶ月を待たず、随時見直しを行う。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院、入退院、理美容院利用には職員が送迎し、家族の顔が見たくなったり家に物を取りに行くなどには車で送り迎えの便宜を図る。家族の宿泊が必要な時は寝具や寝室を提供する。家族や利用者の希望があれば職員が散髪したり髪を染めるなどのサービスも提供する。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従前からの医療機関の継続利用を勧めており、受診に当たっては、特に家族の同行を求められる場合の他は、協力医療機関であるかどうかを問わず、職員が送迎し、医師への情報提供ならびに受診結果の聴取を行い、結果は家族に通知して、適切な医療受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食事が取れる限り、また常時の医療を必要としない限り、最後の看取りまで介護を引き受ける旨入居の際に家族と確認を行っている。状態の悪化が進行した場合には改めて医師を交えて終末期のあり方について話し合っている。		重度化や終末期に向けた方針については口頭での話し合いにとどまらず、文章に明記して家族との間に確認を交わすよう、期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	礼儀を損なう言葉遣い、排泄や入浴に際して機械的に誘導するような介護の押し付け、利用者の要望を一概に無理、ダメと拒否する事がないように気を付けている。書類は保管場所を定め、記録作業中は他者の目に触れないよう細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のおよその日課として、3度の食事とおやつ、バイタルチェックなどは決まった時間に行うが、その他の事は各人の思い思いに自由に過ごしてもらっている。毎日の体操、ぬり絵や工芸などのレクリエーション、壁の装飾物の作成なども、参加する人しない人いずれも本人の希望とペースに任せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が1週間毎に立てている。利用者の希望が出る事は少ない。食材の買出しは利用者も同行して楽しんでいる。食事の準備、調理の一部、後片付けなどに利用者が参加して調理法や味付けの指導をするなど、役割を發揮して食事の喜びを作り出している。職員も一緒に食卓に着いて歓談しながら楽しい時間を過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は土曜日を除く毎日午後が可能な時間帯となっている。各人毎週2回以上をメドに入浴を勧めているが、嫌がる人も多い。拒否される時は時間を置いたり日を変えたり、職員を変えたりしながら繰り返し誘って、最低限週に1回以上は入ってもらっている。夜間浴を試したが希望者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事に関連する仕事の他に洗濯に関連する仕事、小鳥の世話などの役割分担で張り合いを持って生活し、トランプ、花札などのゲームや風船遊びなどに興じ、散歩や職員との会話を楽しんでいる。毎日の体操の時には「今日は何月何日?」と問いかけて日時の意識を刺激している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場の天気の良い時は車椅子の人も含めて毎日30分位かけて散歩に出ている。事業所の周辺は公園や草地などの自然に恵まれ、よい散歩コースとなっている。利用者とともに歩いて買い物に行く事もある。冬は通院の時や買い物が数少ない外出の機会となる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが日中は鍵をかけていない。玄関にセンサーを付けて外出者を感知して安全を図っている。現在のところ外出願望の強い人はいないが、入居間もなくで落ち着かない頃には外出する事もあり、その場合は職員が後からついて出て自然に連れ戻すように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署が協力しての避難訓練を年2回、定期的に行っている。地域の協力については運営推進会議で諮っており、近隣の数軒から万一の時の協力の申し出がある。夜間の想定は職員会議でのシュミレーションで手順や段取りを確認している。		夜間想定訓練を実地で行う事、及び救急救命訓練も消防署の指導などにより受講する事を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士が献立を担当している事によって確保されている。食事及び水分摂取量は個人別に記録されている。水分摂取は1日1000ミリリットル以上を目安とし、不足する時はお茶、コーヒー、果物などで補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間、食堂、台所、浴室、トイレ、洗面所などいずれも清掃が行き届いて清潔で明るく、特段の異臭もない。温度はもとより加湿器や濡れタオルなどにより保湿にも注意が払われ、適正に管理されている。大きな時計やカレンダーがあり、壁には季節の風景の飾り物などが掲げられ、季節や時間の感覚を刺激する工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は職員の心遣いで、清潔で整頓が行き届き清しい雰囲気を与える。使い込んだダンスや鏡台、ほほえまさを誘う写真や人形、ぬいぐるみ、厳かな仏壇などで心穏やかに温かい居室の演出が行われている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。